

東日本大震災対策ニュース No.16 2011.3.31

福島医療生協

震災後初の理事会を開催

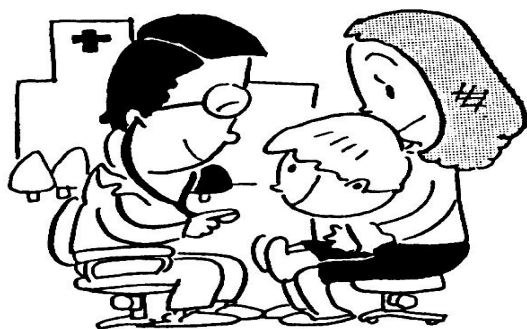
来年度を長計と災害克服に向けた初年度に

2010年度最後の理事会を行いました。通常議題に加えて、被災の状況や対応の経過が報告討論されました。この中で、職員の機敏で創意ある団結した努力によって医療機能が守られ、厳しい状況の中で避難所への医療支援などを含めて必要な役割を果たすことが出来たこと。また組合員のがんばりで、1人暮らし組合員の安否確認や生活支援、避難所への炊き出し、放射線の健康



に対する影響への正しい知識の普及など、医療生協らしい役割を果たしてきたことが確認されました。また、2011年度は第6次長期計画のスタートの年であるとともに、今回の災害を生協の力を生かして克服していく初年度として位置づけ、新たな前進を作り出して行くことを確認しました。

小児科の北條先生が南高校避難所へ



福島市医師会の要請を受けて、2歳から14歳の子どもを診察しました。咳が続く子どもやアトピー症状のある子どもがいて、お薬を処方しました。発熱が続いている80代の女性を診て欲しいという訴えがあり、診察したところ肺に雑音があったため、わたり病院の受診を勧めました。また、若い女性からもせきが続いているとの訴えがあり、お薬を処方しました。同行した看護師は以前わたり病院の看護長で、現在長野の松本協立つ病院にお勤めの北野ひろみさんでした。

こんな時こそ班会を

27日(日)戸ノ内班6人、30日(水)古屋敷班8人の参加で班会を開きました。地震発生時どこにいてどんな状況だったか、いま困っていることなど1人ひとりから話していただきました。度重なる余震と原発事故の放射線に対する不安で、今でも着のみ着のままこたつで寝ている、自家野菜を食べていない、家にこもりっきり等など。「班会を開いてもらって、みんなでお話をしてスッキリしました」とみなさん晴ればれとした顔になりました。

(信夫支部・斉藤豊子理事からのFax)